

学びを止めない税金

福岡教育大学附属福岡中学校 3年 吉村 今日子

中学三年生。受験を本格的に意識し始める時期に私たちはあるプリントを貰った。「奨学金について」と大きく見出しが書かれているものだった。先生が説明を始める。「奨学金は、勉強意欲がありながら経済的理由により修学に困難があると認められた人に対して、お金を貸したり給付したりするものなんです」私は奨学金という言葉に今まで馴染みがなかったが、私たちが進学していくにあたって大きく関わっていくものなのかもしれないと思った。

家に帰って母に奨学金について話すと、父が大学に行っていた時に利用していたことを知った。父に聞いてみると「奨学金には助けられたよ。大学で使うテキストを買ったり、生活費や交通費に使ったり……」思い出しながら話してくれた。父はとても賢くて私に勉強を教えてくれる。たくさんの見方、考え方ができる人だと尊敬する。話を聞いて、大学に進んで学びを深められたことが、今の父につながっているのだと思った。

このように多くの学生の「学びを止めない」奨学金はどこからお金が出されているのだろう。調べると奨学金制度は国費で実施されていた。四十パーセントは国の税金を無利息で借りることで第一種奨学金を成り立たせており、残りの六十パーセントは返済金。つまり以前に奨学金を貸与されていた人達が返すお金で成り立っているのだ。

今のコロナ禍、ニュースで生活に苦しむ大学生をよく見る。自分の志望していた大学にせっかく入れたのに、多くのことを学びたいと思っていたのに、出来なくなってしまう。それどころか、アルバイトの収入が減り、食べるのにも困ってしまっている。そのような言葉を目にする度に心が痛む。この人達の支えになりたいと思う。そんな時、私たちが払う税金は奨学金という一つの形で、学生たちを助けてるのだと思うと嬉しくなる。

奨学金は基本的に大人になって自分で働いて返していく。次の奨学生のもとへと渡っていくのだ。これからも私もそのバトンを受け取り、渡していく一人になるかもしれない。そして、その横で「ガンバレ！」と走っているランナーに水を渡し、応援する一人になっていく。学生がもっともっと先に進めるような手伝いができるのだ。税金を払うという形で。

税金は道路をつくったり教科書を無償化にしたりしている。きっと、もっと、ずっと、税金はひそかに私たちを支えてくれているのだろう。当たり前のように当たり前ではない、日本に住んでいる多くの人の力を合わせて笑顔や安心を生み出してきたのだ。私もこれから成長して大きくなって、税金を払うということを実感できるようになったときには、思い出そうと思う。私がたくさんの学生を、小さな子供達を、おじいちゃん、おばあちゃんを、多くの人を、支えることができているということ。